

令和3年5月12日

【にぎられた手は、はなせない】



こちらはダンゴムシと握手！？をする1年生です。

校内でじわりじわりと活発さを見せる1年生。ご多分に漏れず、今年度の1年生もとても社交的で、私の姿を見つけたら、すぐに手を振ってくれます。

先日、廊下で1年生に会いました。「校長先生、図書館へ行こう」と言って私の手を握ってくれました。いつもなら、なんのためらいもなくがっしりと手をつなぐのですが・・・このコロナ禍。一瞬考えてしまう私がありました。

しかし！！1年生のちっちゃな手。握られた手を離すことなど私には到底できません。1年生のちっちゃな手をがしっと握り図書館へと歩を進めました。

それにしても、こんな行為さえにも戸惑いをもたらすコロナウイルス。共存とは言え、やはり一刻も早い収束を心の底から願います。

子どもたちにとって（そして、私にとっても）給食は、学校でのかなりなモチベーションになっているというお話

～給食のコンテナ室前。メニュー表をみながら～

A君：今日の給食楽しみ

私：どれどれ。ハンバーグに、大根とツナのサラダかあ。いいねえ。

A君：給食が良い日は勉強への気合の入り方が違うんだよね。

私：わかる、わかる。やる気でするよねえ。

（しばし、メニュー表を二人で見つめる）

給食は、もちろんいつもおいしいのですが、やはりお気に入りというのはあるものです。

<しかし、小学生と食の趣味が合うとは、お恥ずかしいです(#^_^#)>



今年度、少し外に出る勤務が多く、子どもたちとのかわりがあまり持てず、なかなかつぶやけません。

いや、それは言い訳!! だって、子どもとのかわりは皆無ではないのに。つぶやけないのは、受け手である私の問題。「忙」という字は“心を亡くす”とはよく言ったもの。

子どもたちは、きっとステキなお話を私にしてくれているのに、この頃の私はそのステキさに気づけずにいるのであります(+o+) (いかん、いかん)